

**テーマ：貿易統計（2014年5月）**
**発表日：2014年6月18日（水）**

～輸出の低迷が続く～

第一生命経済研究所 経済調査部  
 担当 副主任エコノミスト 高橋 大輝  
 TEL：03-5221-4524

		貿易収支(億円)				輸出数量						輸入数量		
		輸出金額		輸入金額		アメリカ		EU	アジア		アメリカ		EU	アジア
		原数値	季調値	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比
13	4月	▲ 8774	▲ 7947	3.8	9.4	▲ 3.0	0.2	▲ 11.8	▲ 2.2	2.5	▲ 8.6	7.3	3.2	
	5月	▲ 9913	▲ 7850	10.1	10.0	▲ 1.2	▲ 3.3	▲ 16.4	2.1	▲ 2.2	▲ 6.8	▲ 0.6	▲ 5.5	
	6月	▲ 1805	▲ 7015	7.4	11.7	▲ 5.1	▲ 6.4	▲ 9.4	▲ 4.0	▲ 5.0	▲ 2.9	0.2	▲ 7.5	
	7月	▲ 10325	▲ 9641	12.2	19.7	1.8	0.4	0.2	▲ 1.7	2.4	2.1	4.2	1.2	
	8月	▲ 9714	▲ 8903	14.6	16.2	1.9	0.9	▲ 1.2	0.4	▲ 1.9	▲ 2.2	▲ 0.6	▲ 2.5	
	9月	▲ 9432	▲ 11262	11.4	16.7	▲ 1.8	▲ 1.2	▲ 2.2	▲ 4.0	▲ 2.1	▲ 5.8	14.0	1.4	
	10月	▲ 11004	▲ 11864	18.6	26.3	4.4	5.3	8.0	2.0	6.4	▲ 2.0	6.0	3.3	
	11月	▲ 13011	▲ 13513	18.4	21.2	6.2	2.9	0.4	5.9	3.4	21.2	▲ 7.0	1.8	
	12月	▲ 13072	▲ 11854	15.3	24.8	2.5	▲ 4.6	5.4	2.2	4.7	1.1	16.9	1.8	
	14	1月	▲ 27950	▲ 17392	9.5	25.1	▲ 0.2	6.3	5.5	▲ 2.0	8.0	15.3	9.2	10.9
		2月	▲ 8047	▲ 11368	9.8	9.0	5.4	▲ 1.0	8.2	5.0	▲ 0.5	16.0	8.5	▲ 2.9
		3月	▲ 14507	▲ 16194	1.8	18.2	▲ 2.5	1.5	▲ 0.3	▲ 4.9	11.6	13.3	12.8	11.3
4月		▲ 8117	▲ 8805	5.1	3.4	2.0	▲ 1.5	4.8	▲ 1.1	▲ 1.3	6.2	0.6	1.1	
5月		▲ 9090	▲ 8622	▲ 2.7	▲ 3.6	▲ 3.4	▲ 1.9	7.5	▲ 5.0	▲ 4.0	1.0	▲ 0.7	▲ 2.2	

(出所)財務省「貿易統計」

## ○輸出の低迷が続く

2014年5月の貿易統計が財務省より発表され、貿易収支は9,090億円の赤字（コンセンサス：▲11,829億円、レンジ：▲15,917～▲9,655億円）となった。季節調整値でみると、輸出が前月比▲1.2%、輸入は同▲1.3%とともに減少し、貿易収支は8,622億円の赤字と小幅縮小した。輸入が駆け込み需要の反動減の影響もあり比較的弱めの推移が続いたことで貿易赤字の拡大には歯止めがかかっているが、輸出は低迷が続いており改善の兆しがみられない。

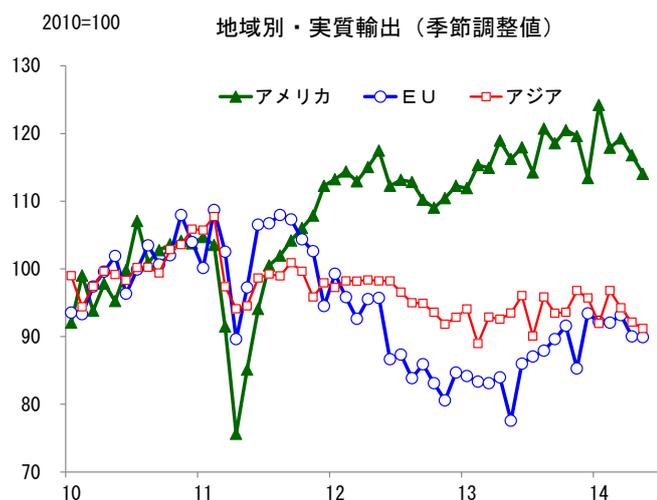
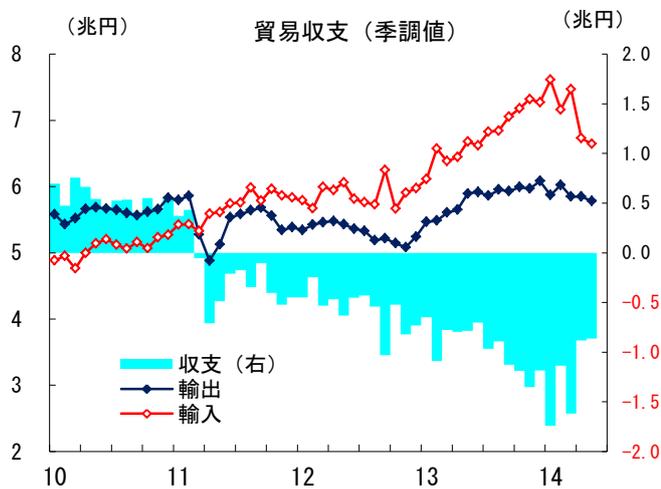
物価変動の影響を除いた5月の実質輸出（実質化、季節調整は第一生命経済研究所試算）は、前月比▲2.1%（4月：▲1.2%）と3ヶ月連続の減少だ。1-3月平均と4-5月平均を比較すると、前期比▲2.3%の減少となった。実質輸出を地域別にみると、米国向けが前月比▲2.3%、EU向けが同▲0.2%、アジア向けが同▲1.0%と揃って減少、ここへきて各地域向けとも弱めの推移が続いている。中でも気がかりなのは、輸送用機器の減少を背景に米国向け輸出の減少が続いていることだ。足元の米国経済は景気拡大が続いており、米国自動車販売も好調に推移している。こうした中、4月分までのデータではあるものの、国内大手自動車メーカーの輸出向け生産台数をみると前年比マイナスが続く一方、海外での現地生産は増加基調で推移している。海外生産による対応が増加することで、米国向け輸送用機器輸出の増加を抑制している可能性があり、輸出の回復には時間がかかりそうだ。

## ○輸出は4-6月期も前期比マイナスの公算大

以上のように、5月の貿易収支（季節調整値）の赤字幅は小幅改善となったが、輸出は低迷が続いた。実質輸出は4-6月期も前期比マイナスとなる可能性が高く、輸出の回復は遅れている。海外生産の増加等を背景に輸出の回復には時間がかかっているものの、先行きの輸出は増加基調に転じていくとみている。米国経済は、雇用や所得の改善などを背景に安定した成長軌道を進む公算が大きく、欧州経済も緩やかながらも

改善が続いていこう。また、先進国経済の持ち直しが、新興国経済へ好影響を与えることも見込まれ、こうした動きが輸出の増加を後押ししよう。輸入は駆け込み需要の反動減の影響が徐々に剥落することで増加基調に転じていくとみているが、増加ペースは駆け込み需要による押し上げがなくなった分緩やかなものとなろう。こうした要因を背景に、貿易収支は赤字幅縮小傾向での推移を見込んでいるが、その改善ペースは緩慢なものになるとみている。

なお、5月の経常収支（季節調整値）は原数値、季節調整値ともに黒字を見込んでいる。



(※) 出所はすべて、財務省「貿易統計」。実質輸出の実質化、および季節調整は第一生命経済研究所。